二松學舍松苓会報

CONTENTS

P2 松苓会創設85周年記念式典を挙行
P7 平成28年度定期総会
P10 松苓会各支部活動報告
P16 大学だより
P17 教員免許状更新講習
P18 松苓会の歩み(7)
P20 大学図書館の今昔
P21 活躍する卒業生
P22 卒業生だより・会員からの便り
P24 「恋する人文学」の紹介・編集後記

No.56
2016年10月1日

松苓会創設85周年記念式典を挙行

85周年記念式典を終えて

会長　廣田　克己

まず、平成28年6月12日（日）に挙行した「二松學舍松苓会創設85周年記念式典及び祝賀会」が滞りなく開催、終了したことを会員の皆様にご報告いたします。

水戸理事長、菅原学長をはじめ多くの来賓と会員の皆様のご出席をいただいた記念式典は、二松學舍大学1号館の中洲講堂で行われました。式典では理事長、学長の祝辞をいただき、松苓会活動にご尽力いただいた会員の方々に感謝状を贈呈させていただきました。式典には全国から参加いただいた会員の皆様が多数出席され、緊張と祝賀の雰囲気の中で幕を閉じました。

式典に続いて、水戸理事長による『いままでの二松學舍。これからの二松學舍。』と題する記念講演が行われました。母校を巣立って長い年月をそれぞれの現場で過ごしてきた会員にとって、二松學舍大学の歴史と将来が分かりやすい内容で、「式典にふさわしい講演で、母校のことが大変よく理解できた」との声をたくさん耳にしました。

その後の祝賀会は1号館13階のラウンジに場を移して行われました。専門学校卒業の先輩諸氏を始め、多くの卒業生の大学や松苓会に寄せる熱い思いを感じる、まさに同窓会らしい祝賀会となりました。この企画を実施してよかったと思うひと時でした。

記念式典、祝賀会に出席された皆様だけでなく、全国の松苓会員のこれまでの活動や活躍が後押ししてくれたものと感謝いたします。そのすべての皆さんに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

しかし、この85周年は一区切りであり、今後へのスタートであることは言うまでもありません。今回の記念事業を機に松苓会の歴史をまとめようとしましたが、資料の散逸が相当数あり、記念誌には欠落した部分がまだまだあります。そのため担当者は大変苦労しました。今後も引き続き資料収集を続けます。どのようなものでも結構ですので、資料をご提供ください。

また、松苓会の今後には解決しなければならない問題が山積しています。先送りできない時期になっておりますので、その諸課題の解決を考える「基本問題検討委員会」を昨年の総会で立ち上げました。85周年式典以後に本格的に検討を始めました。

以上、いろいろと申し上げましたが、今後もさまざまな観点から松苓会員の皆様のご支援、ご協力が必要です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

松苓会創設85周年記念式典・祝賀会が6月12日（日）、学校法人・大学関係の招待者、全国各地から出席の会員、約150人が参加して開催された。

記念式典は、午前10時から中洲記念講堂で、中原敬二幹事の総合司会、新井喜義副会長の開式の辞で始まった。廣田克己会長の式辞、続いて水戸英則学校法人二松學舍理事長、菅原淳子二松學舍大学学長の祝辞があり、さらに、長年松苓会の発展に貢献された方への感謝状の贈呈が行なわれ、代表として前会長の神津賢一郎氏（文27）、顧問の末吉榮三氏（専12）、元大分県支部長の平野芳彦氏（専14）にそれぞれ会長から感謝状が授与された。

山崎正伸副会長の閉式の辞で式典は約30分で終了。続いて学校法人二松學舍水戸英則理事長の記念講演が行われた。演題は「いままでの二松學舍。これからの二松學舍。」

講演会終了後、代表以外の感謝状受賞者に廣田会長から一人ずつ感謝状が手渡され、記念撮影を行った。

祝賀会は、大学13階ラウンジで12時30分から大渕俊明幹事の司会で開催した。廣田会長の挨拶に続き、神津賢一郎前会長の乾杯で開宴。懇談中、末吉榮三顧問、平野芳彦元支部長、久保田美年子名誉教授、金子茂名誉教授から挨拶をいただき、深澤賢治元群馬県支部長（文37）の吟詠、松吟会ＯＢによる三島中洲「二松學舍示諸生」の吟詠があり、大いに盛り上がった。最後に、持田賢一氏（文40　埼玉）指揮で校歌斉唱、新井副会長の閉会挨拶で祝賀会を終了した。

松苓会では、85周年記念事業として、『松苓会報　特集号』（第55号）、『創設85周年記念誌』を発行した。

式典に参列して

平野芳彦（専14）

85周年式典に於て感謝状を頂ける連絡を頂き出席することにしました。

これまで展望室・学長室等を訪問しましたが、初めて立派な中洲記念講堂で、しかも代表として壇上に上り名誉ある感謝状を頂き有難いことでした。

昭和16年より学び、戦時中昭和20年5月1日、軍人として任地に趣く途中、二松學舍を訪れた所、完全に焼失。残るは書庫のみでした。

それが今日の立派な校舎となっての発展、最大の喜びです。

戦後20年10月1日から公立学校勤務。37年半で退職。翌日から私学7年間、計44年半の生活はただただ二松學舍のおかげと感謝する許りです。

山田準校長先生初め那智佐伝・塩田良平先生、小豆沢英男先生とは仙台・松島・中尊寺の旅の思い出。富士登山も出来ました。

8月8日を以て満94歳になりましたが、毎日杖無しで八千歩目標にしっかり歩いている所です。勤務校の同窓会にも毎年東京・大阪・北九州と楽しんでおります。

母校二松學舍の益々の御発展を祈念致し、結びと致します。

式典に参加して

大國真由実（文69）

二松學舍大学職員を私事で辞してから丸3年。松苓会85周年記念式典の案内が手元に届いた。仕事も休みのため「通いなれた母校に久々に遊びに行く」といった軽い気持ちで参加をした。

しかしどうだろう。受付を済ませた時頂いたずっしりと重い紙袋。複数の書籍、冊子が入っていたことにまず驚いた。85年の重みとはこのような重さだろうか。そして記念講演講師は水戸理事長。私が職員として働いていた当初から力を入れていらした「N' 2020Plan」のアクションプランが着実に前進していることを感じた。講演中にプラン実現に尽力されている方々の座席を確認し、そちらの方を向いてここまでの苦労をねぎらうなど、私が組織にいた時には気がつかなかった理事長の心遣いを感じた。この少子化の時代に合わせつつも、二松學舍独自の校風を後世に伝えるために、今変化しつつあるのを肌で感じた。

その後の祝賀会では、恩師の石川忠久先生をはじめ、松吟會顧問の川久保廣衛先生など、お世話になった懐かしい先生方と再会することができた。また、短期間ではあるが松吟會第45代執行部に身を置いた者としては、何よりも三島中洲先生の「二松學舍示諸生」を、齢三十ほど離れた大先輩方のなさった合吟を拝聴できたことは夢のようであった。

記念式典の開催は今回が初ということであったが、このような貴重な会に声をかけていただいたことに感謝すると同時に、益々の発展を祈念する。

式典に参列して

木内美知子（文39）

松苓会85周年おめでとうございます。式典には北海道から沖縄まで、大勢のOBが集い話はつきず時を忘れる楽しい会となりました。今日まで松苓会を受け継れた方々、母校の躍進と共に幹事の方のお力と学舎に対する情熱に思いを馳ました。この式典の陰には、歴代事務局のご努力と小林幹事長はじめ母校勤務の卒業生が永年にわたり繁雑な仕事をこなしてくださった事に、卒業生の一人として感動をいただき感謝の気持ちで一杯です。

近年、東京支部女子会が発足。幹事さんの斬新なアイディアで大変楽しい会となり、男子の多数参加もあり、文学散歩など有意義な活動になっております。私は、国文科でありながら書道と短歌・漢詩文を現在も学び続けております。これも一重に母校と恩師の御教えの賜ものと深く心に染みております。大学資料展示室も貴重な資料がいつも無料で観覧でき楽しみのひとつとなっております。

この記念すべき集りで、卒業生それぞれが三島中洲先生の建学の理念を受け継いでいるように感じました。100周年にむけて、私も微力ながら協力をおしまないつもりです。後輩の皆様も是非、機会あるごとに参加して下さることを望みます。

学舎の益々の発展と充実を心より祈念いたします。

記念式典で感謝状贈呈

85周年記念式典において、長年松苓会の発展に尽力された方に、次の、感謝状を授与した。

「あなたは長年にわたり二松學舍松苓会の会長（本部役員、支部長、支部役員）を務められ松苓会の発展に貢献されました。松苓会創設85周年記念式典挙行にあたり、これまでのご尽力に深く敬意と感謝の意を表します。」

受賞者は次のとおり。

会長経験者（2名）

武田　祈（11回）
神津賢一郎（27回）

本部役員経験者（11名）

末吉榮三（12回）佐佐木鍾三郎（15回）
雨海博洋（19回）菅根順之（24回）
横田睦夫（25回）松田　存（26回）
川久保廣衛（35回）磯　水絵（41回）
大地武雄（博10）柴山真吾（特）
手島茂樹（特）

支部長等支部役員経験者（38名）

杉野　茂（14回　三重）千葉與一郎（14回　宮城）
平野芳彦（14回　大分）山田卯典（16回　福岡）
嘉部益次（17回　長野）細井宏二（17回　徳島）
丸山祐三郎（24回　新潟）藤田佳應（24回　島根）
鴻上信彦（25回　愛媛）松田温昭（25回　埼玉）
畑　功（26回　岩手）平岡才二郎（26回　広島）
千葉　仁（27回　宮城）芳尾晴喜（27回　富山）
新海　守（30回　愛知）岡元正昭（31回鹿児島）
稲垣武嗣（33回　三重）関　保典（35回　長野）
奥村悠二郎（36回北海道）加茂　忍（36回　大分）
那花　隼（36回　茨城）永淵道彦（36回　福岡）
山﨑郁紀（36回北海道）坂本和生（37回　高知）
深澤賢治（37回　群馬）上田善達（38回　愛媛）
金城健一（38回　沖縄）黒瀬孝志郎（38回　長崎）
小谷章公（38回　鳥取）小山正敬（39回　岡山）
大西邦美（40回　香川）櫻井哲夫（41回　栃木）
宮崎宣幸（41回　宮崎）坂井福作（42回　新潟）
武内昭徳（47回　兵庫）明治利隆（47回和歌山）
塩永英文（52回　熊本）中道佳宏（58回　福井）

『二松學舍松苓会創設85周年記念誌』発行

85周年記念事業として『記念誌』を発行した。記念誌は、松苓会の歴史資料集、記録集の性格をもって編集されており、A4判　横書き口絵　8頁　本文206頁からなっている。次に目次を掲げる。

〈目次〉

刊行によせて
写真でたどる松苓会の歩み
第1章　二松學舍松苓会沿革
　1　松苓会前史
　2　松苓会歴年沿革
第2章　二松學舍松苓会機関誌等
　1　刊行物
　2　機関誌『松苓』
　3　『二松學舍松苓会報』
　4　刊行物
第3章　二松學舍松苓会会則の変遷
第4章　二松學舍松苓会会員名簿発行状況
第5章　『二松學舍大学新聞』松苓会関係記事一覧
第6章　『二松學舍松苓会報』記事一覧
第7章　二松學舍松苓会歴代会長
第8章　二松學舍松苓会歴代役員
第9章　歴代支部長及び支部活動の状況
　1　初期の頃の支部
　2　都道府県支部
第10章　卒業者数一覧
第11章　二松學舍松苓会規程集
参考資料
あとがき

平成28年度 第21回松苓会定期総会

平成28年度松苓会定期総会が6月11日（土）の13時から二松學舍大学11階会議室で開催された。

来賓として五十嵐清常任理事（理事長代理）・菅原淳子学長をお迎えして行われた。全国から30支部の支部長（代理出席も含む）が参加した。

出席者は次の通りである。

来賓

五十嵐清　常任理事（相談役水戸理事長の代理）
菅原淳子　学長　（相談役）
末吉榮三　顧問

本部

廣田克己（会長）
新井喜義・山崎正伸（副会長）
小林公雄（幹事長）

常任幹事

平野光治（神奈川県支部長）
小林憲二・清水登・大山由美子
神河秀春・髙柳幸雄・菅原義博
高橋映子・志村孝・助川忠弘

幹事

山﨑郁紀（北海道地区）
宮本義孝（岩手県支部長）
辻　将一（千葉県支部長）
小島貴雄（富山県支部長）
武内昭徳（兵庫県支部長）
大西邦美（香川県支部長）
宮崎宣幸（宮崎県支部長）
金城健一（沖縄県支部長）
星野優子・小町邦明・大渕俊明
山口洋子・町泉寿郎・中原敬二
山口浩二

監事

畠山幸治・木村誠次

支部長

増井義昭（北海道）・柴垣博孝（青森）
千葉　仁（宮城）・齋藤　裕（山形）
沼田俊明（茨城）・寺内　進（栃木）
小石さち子（群馬）・町田哲夫（埼玉）
片山聖英（東京代）・板山俊介（山梨）
坂井福作（新潟）・中道佳宏（福井）
永井陵次（静岡）・齋藤　衛（大阪）
小谷章公（鳥取）・永瀬　清（岡山）
大倉明子（徳島）・上田善達（愛媛）
永淵道彦（福岡）・黒瀬孝志郎（長崎）
甲斐啓一郎（大分）・岡元正昭（鹿児島）

事務局（事務局長）

佐藤　修

総会は志村常任幹事の司会により、開会が宣言された。続いて物故者への黙祷があった。

事務局から、構成員74名中、出席者54名、委任状19名の合計73名で総会が成立するとの報告があり、確認された。

廣田会長挨拶の後、水戸理事長代理の五十嵐常任理事・菅原学長から挨拶を頂いた。新井副会長を議長に選出の後、書記に山口洋子幹事・中原幹事が指名された。議事録署名人には、清水常任幹事、辻支部長（千葉）が指名された。

◆議案審議

① 平成27年度事業報告
② 平成27度収支決算報告
　並びに監査報告
③ 平成28年度事業方針
　並びに計画（案）
④ 平成28年度予算（案）
⑤ 二松學舍松苓会役員候補者選考委員会運営内規（案）
⑥ 二松學舍松苓会感謝状贈呈の基準等に関する内規（案）
⑦ 前会長神津賢一郎氏の顧問推戴について

議　案　審　議

次第に沿って議案の審議があり、1号議案から7号議案まで異議なく承認された。

5号議案は、役員候補者選考委員会について、委員会の構成の規定はあるが、運営に関する規定が整備されていないため、内規で整備した。

6号議案は、85周年記念事業として、松苓会の発展に尽力された方に感謝状を贈呈する。併せて顕彰事業を継続的に進めるため、感謝状贈呈の基準等を整備した。

7号議案は、神津賢一郎前会長が、2期8年の長きにわたり松苓会発展のためな大きな貢献をされたことにより、顧問に推戴した。

議案審議の後、その他の事項で全国の各支部長から、支部の現状説明、松苓会の問題や課題について提言があり、有意義な意見交換の場となった。

平成28年度　松苓会事業方針

二松學舍大学で学んだ学生が、大学を卒業すると同時に松苓会会員となります。本学を単なる出身校ではなく、母校であるという思いに至る存在感のある松苓会にしたい。卒業生一人一人を大切に、卒業生のための松苓会とすべく諸事業を推進していきます。

1．ホームカミングデーの開催。昨年は大学九段1号館改修工事のため、12月開催となりましたが、本年は、例年の学園祭期間中に開催します。

2．「松苓会報」は、松苓会と会員を結ぶ情報紙として重要な役割を果たすものです。紙面の充実を図るため、会員からの原稿募集など編集委員会で更なる工夫をします。今年度は、85周年記念特集号（第55号）のほか、第56号（9月中旬）、第57号（3月中旬）を発行します。

3．支部活動等の卒業生支援事業

〈1〉支部活動振興のため、次のような施策のもとに活動を展開します。

①支部助成は、昨年度と同様、支部運営助成費として、支部活動に必要な経費（通信費、総会等開催時の会場費、封筒等印刷費など）を助成します。他に、支部総会開催費として開催支部に2万

平成28年度定期総会

円、支部分会開催の場合は、1万円を助成します。また、支部報発行助成費として、発行経費を3万円を上限として実費を助成します。

②現在多くの支部が活動停滞状況にあります。今年度も、活動等を希望する支部と連携を取りながら、総会等の開催支援等を実施します。本年度は青森県、岡山県、山梨県、栃木県、及び近畿地区の府県を重点地区とします。

③大学が地方で開催する大学説明会等を活用した支部活動の推進

本年も、地方における大学説明会が企画されています。高松市、青森市、秋田市、宇都宮市、鹿児島市、新潟市での開催が、大学側から発表されています。すでに関係の支部には、この機会を利用した支部活動の展開を依頼しておりますが、本部としても積極的に支援していきます。

④支部総会等が未開催のうえ、本部総会欠席が長期にわたり続いている（過去5年位）支部に対し、引き続き積極的な働きかけを行っていきます。

〈2〉卒業生名刺交換会（異業種交流会）などの支援

本年2月大学で卒業生名刺交換会（異業種交流会）が開催されました。また、教員免許状更新講習が例年大学で開催され、本学卒業生が多数参加しています。卒業生が多く集う行事等を支援し、卒業生との交流を深めていきます。

〈3〉卒業生の諸活動（同期会、ゼミ会、サークル会等）に対する助成は、本年度も継続します（1団体10人以上出席、1万円の助成）。

4. 母校支援事業、在学生支援事業

〈1〉松苓会奨学金

新規貸し出しを3人予定します。基金は、繰り越しがあり、本年度の積み立ては50万円とします。

なお、大学側から貸与奨学金を給付奨学金に変更できないかとの要望がありますので、基本問題検討委員会で検討します。

〈2〉在学生教育支援助成

建学の精神を高揚するための自校教育や就職、教職支援講座など直接学生の教育に係る分野を支援するため一昨年設けた助成制度ですが、大学側の準備が整わず、昨年も未実施に終わりました。本年度は既に大学側から、次の企画が提出されておりますので実施に移します。

①キャリア・デザイン講座

夏休み期間中の集中講座（2日間）と12月の設定目標達成報告会。対象は3年生。

②学生食堂100円朝食提供

「食育」の観点から100円定食を提供し、健康な状態で学業に専念できる環境づくりを支援します。

毎週水・木曜日　8：15～9：30　1日30食

5. 松苓会創設85周年記念事業の実施

昭和6年に松苓会が創設されてから、本年は85周年を迎えることとなります。創設85周年記念式典・祝賀会等の記念事業を実施します。

6. 基本問題検討委員会での検討

第1回の委員会を昨年11月7日に開催し、諮問された事項の確認、検討を要する問題点等を確認しました。実質的な検討は、85周年記念式典が終わってから行います。

7. 終身会費納入手続きの推進、寄付金募金活動の展開

8. 規程整備

引き続き松苓会の必要な規程整備を推進していきます。

二松學舍松苓会　幹事会開催

総会に先立って、幹事会が開催された。本部の三役・常任幹事・幹事・監事事務局の30名が出席し、総会の議案についての説明と、それに対する審議が行われた。

総会に提案する議案にたいして理解を得られ、短い時間の中で会は効率的に進行された。

平成28年度幹事会

平成 28 年度　松苓会予算

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

○　収入の部

（単位：円）

前年度繰越金	2,163,573
入会金	3,720,000
（会費）	
新卒者終身会費	9,450,000
既卒者終身会費	500,000
小計	9,950,000
寄付金	500,000
雑収入・利息	3,000
合計	16,336,573

○　支出の部

事業費	
卒業生懇親会費	800,000
松苓会報等発行	
印刷・制作費	1,700,000
発送費	700,000
『茨苓』発行費	0
小計	2,400,000
卒業生支援事業	
支部運営助成費	1,500,000
支部報発行助成費	300,000
支部強化助成費	100,000
同期会・ゼミ会等助成費	100,000
小計	2,000,000
母校支援事業	
教育振興資金助成費	1,000,000
教育事業後援費	100,000
松苓会奨学金基金	500,000
教育研究大会助成費	50,000
小計	1,650,000
在学生支援事業	
学園祭助成費	50,000
課外活動助成費	200,000
教育支援助成費	800,000
卒業記念品費	750,000
小計	1,800,000
事業費合計	8,650,000
運営費	
会議費	150,000
旅費・交通費	2,200,000
職務費	400,000
通信費	150,000
備品費	300,000
印刷費	400,000
消耗品費	70,000
慶弔費	80,000
謝礼金	10,000
手数料	50,000
雑費	20,000
運営費合計	3,830,000
特別会計	
周年事業積立金	0
終身会員積立金	2,583,000
特別会計合計	2,583,000
予備費	1,273,573
合計	16,336,573

平成 27 年度　松苓会収支決算書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

○　収入の部

（単位：円）

前年度繰越金	698,358
入会金	3,535,000
（会費）	
新卒者終身会費	10,080,000
既卒者終身会費	670,000
小計	10,750,000
寄付金	621,500
雑収入・利息	46,247
合計	15,651,105

○　支出の部

事業費	
卒業生懇親会費	784,649
松苓会報等発行	
印刷・制作費	1,546,560
発送費	677,951
『茨苓』発行費	0
小計	2,224,511
卒業生支援事業	
支部運営助成費	1,385,210
支部報発行助成費	277,234
支部強化助成費	10,000
同期会等助成費	10,000
小計	1,682,444
母校支援事業	
教育振興資金助成費	1,000,000
教育事業後援費	100,000
松苓会奨学金基金	500,000
教育研究大会助成費	50,000
小計	1,650,000
在学生支援事業	
学園祭助成費	50,000
課外活動助成費	180,000
教育支援助成費	0
卒業記念品費	720,000
小計	950,000
事業費合計	7,291,604
運営費	
会議費	169,337
旅費・交通費	1,783,594
職務費	292,000
通信費	108,472
備品費	500,492
印刷費	396,490
消耗品費	57,943
慶弔費	85,000
謝礼金	0
手数料	43,160
雑費	4,240
運営費合計	3,440,728
特別会計	
周年事業積立金	0
終身会員積立金	2,755,200
特別会計合計	2,755,200
予備費	0
合計	13,487,532
○収支残高	2,163,573

平成 28 年度　松苓会特別会計予算

1　松苓会基金

（単位：円）

平成 27 年度からの繰越	2,000,305
利息	50
合計	2,000,355

2　周年事業積立金

（収入の部）	
平成 27 年度からの繰越	8,019,900
平成 28 年度繰入	0
利息	900
合計	8,020,800
（支出の部）	
85 周年記念誌発行費	500,000
会報 55 号特集号	1,000,000
式典・祝賀会関係	900,000
開催案内等印刷・送料　その他	1,100,000
合計	3,500,000

3　終身会員積立金

（収入の部）	
平成 27 年度からの繰越	62,837,747
平成 28 年度繰入	2,583,000
利息	7,500
合計	65,428,247
（支出の部）	
終身会員サービス費（会報 57 号発送費1回分）	760,000
手数料	864
合計	760,864

4　松苓会奨学金

（収入の部）	
平成 27 年度からの繰越	5,459,155
平成 28 年度繰入	500,000
平成 28 年度貸与返還金	606,000
利息	800
合計	6,565,955
（支出の部）	
平成 28 年度奨学金貸与	1,395,000

平成 27 年度　松苓会特別会計決算書

1　松苓会基金

（単位：円）

平成 26 年度からの繰越	2,000,247
利息	58
合計	2,000,305

2　周年事業積立金

平成 26 年度からの繰越	8,018,913
平成 27 年度繰入	0
利息	987
合計	8,019,900

3　終身会員積立金

（収入の部）	
平成 26 年度からの繰越	60,777,177
平成 27 年度繰入	2,755,200
利息	7,517
合計	63,539,894
（支出の部）	
終身会員サービス費（会報発送費 1 回分）	701,283
手数料	864
合計	702,147
○収支残高	62,837,747

4　松苓会奨学金

（収入の部）	
平成 26 年度からの繰越	4,966,332
平成 27 年度繰入	500,000
平成 27 年度貸与返還金	457,000
利息	823
合計	5,924,155
（支出の部）	
平成 26 年度奨学金貸与	465,000
○収支残高	5,459,155

会計監査報告書

平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。

平成 28 年 4 月 21 日

二松學舍松苓会監事　畠山　幸治　㊞
二松學舍松苓会監事　木村　誠次　㊞

平成 27 年度会計収支決算は以上のとおりです。

平成 28 年 4 月 21 日

二松學舍松苓会会長　廣田　克己　㊞
松苓会事務局長　佐藤　修　㊞

松苓会各支部活動報告

〈出席・参加者欄は敬称略〉

北海道支部

◆支部総会　支部長　増井義昭

松苓会北海道支部総会が8月20日、17時30分、札幌市中央区のイタリアレストラン「エスパニョール」にて開催された。

支部会員出席者10名、本部より廣田松苓会長の出席を頂き、総勢11名にての総会であった。その日は、気象庁の統計上初と言う1週間に3つの台風が北海道に上陸した歴史的週に当り、1つ目と2つ目の丁度中間と言う日であった。札幌市内は雨天日ではありましたが、強風が吹き荒れる訳でもなく、台風の影響をあまり感じる事なく、支部総会が進められましたが、遠方よりの出席予定者が、総会も終わり、後の懇親会の終り近くに顔を出し、その遅刻理由を聞くと、去った台風か来る台風かは判らないが、その影響によりJRが不通となり、高速バスに替えて来たとの事。目の前のイタメシを腹に詰め込み、帰りの足が無くなると言う、集合写真の、シャッターが降りると同時に足早に帰って行ったのには唖然とするばかりで、歴史的台風のすごさと、北海道の広さに、只々感服するばかりであった。

札幌市・エスパニョールにて

廣田会長より、松苓会の現況、それに松苓会85周年行事を行うに関してのさまざまな苦労話の御披露を頂き、松苓会中枢の生の声を耳にし、支部会員も熱い心を抱いた事でありましょう。

今迄、我々北海道支部会員も、支部があるから、会員として参加をしていると言う、在り来たりの感があり、その成り立ち、そしてその活動の歴史を知らずに来た事も事実であったと思う。ましてや、松苓会本部の歴史となると、もっと遠い話になる訳であり、知らぬ事ばかりである。しかし、此の度の松苓会85周年事業による「二松學舍松苓会創設85周年記念誌」及び「二松學舍松苓会報（特集号）」に於いて、知らぬ事が、知り得た事に変り自分史の中に新たな一筆を書き加える事が出来たと言う事実に大きな喜びを感じるのであります。

この二誌は松苓会85年の歴史書である事は勿論の事、これから作られるであろう新たな歴史の礎とも言えるものであり、編纂に携わられた皆様には深くお礼を申し上げるものであります。

支部総会、懇親会、そして雨の中を二次会へと歩き出した、松苓会会員達でありました。

〈出席者〉

廣田克己（松苓会長）

中　紀義（文31）　山﨑郁紀（文36）

不動和則（文43）　花木　弘（文49）

水間猛猪（文52）　赤津博久（文54）

菅原　淳（文54）　吉野泰正（文55）

富永貴之（文65）　増井義昭（文39）

◆支部報発行

○第53号　平成28年7月20日発行

・支部会員の異動

・大学トピックス

・平成28年度総会のお知らせ

・書籍紹介　会費納入のお願い

青森県支部

◆支部総会　支部長　柴垣博孝

8月6日（土）午後4時半から、八戸プラザホテルにおいて待望の「松苓会青森県支部の集い」を開催することができました。ここ四半世紀の間、県支部としての活動が持たれていなかっただけに記念すべき再出発の日とすることができました。

教職にあって、共に苦楽を共にした先輩や後輩がこの立ち上げに尽力してくださいました。有難く思っています。また、支部報も出すことができました。あとは何はともあれ毎年「支部の集い」を開催して会員の親睦を図り、青森県支部が次代に受け継がれていくように活動して行きたいと思っております。

八戸プラザホテルにて

青森県の子弟を二松學舍へとか、教員を派遣して頂いて中学・高校の国語科教員に研修の機会を提供することとか、特に漢文教育力の維持・向上のための活動のことなど、いろいろと考えているところもありますが、まずは支部の維持です。

当日は、新井喜義松苓会副会長が来青され、御挨拶を頂きました。出席者は文学部卒業生が高杉勝昭先輩を筆頭に10人、国際政治経済学部卒業生が3人。都合13人の方々の出席を得ました。この日、八戸市も真夏日。生ビールを酌み交わしながら真夏日以上の熱気で楽しい会話に花が咲きました。

来年は、8月5日（土）に八戸プラザホテルで開催しますので、今回

参加できなかった会員の皆様には、御参加のほど宜しくお願いしたいと思っております。

出席者は、写真の前列右より、大庭文武（文42）、鴨沢和喜（文41）、柴垣博孝支部長（文44）、新井喜義松苓会副会長（文37）、高杉勝昭（文34）、鷹嘴昌也（政18）、後列右より、福村賢一（政4）、佐々木周子（文50）、山口ゆり子（文39）、阿部俊一（文53）、田中信哉（文58）、辻隆久（政4）、八木田一義（文64）の皆さんでした。

◆支部報発行

○第1号　平成28年8月6日発行

・三度目の正直　支部長　柴垣博孝
・青森支部の集い開催
・飯田橋から二松學舍へ
・松苓会定期総会
　活発な議論がなされる
・文学部に新学科開設さる
　都市文化デザイン学科
・創設85周年記念式典開催
・松苓会青森県支部庶務報告
・二松學舍大学説明会開催さる
・編集後記

岩手県支部

◆支部総会　支部長　宮本義孝

平成28年度県支部総会は、廣田克己会長をお迎えし7月24日（日）11時～15時「サンセール盛岡」で開催された。

〈出席者〉　11名。

廣田克己会長　小笠原克夫（文34）　目黒　泰（文38）
伊藤慶子（文38）　川村敏明（文40）
髙橋良光（文41）　大星栄子（文45）
髙橋廣至（文46）　小田中一（文54）
長谷川ルリ子（文47）　宮本義孝（文32）

尚、前支部長の畑功さんと支部創設以来、毎回顔を見せていた小山尊史さんが今回は欠席なされた。

支部もそろそろ世代の交替が感じられるようになってきた。

総会では平成10年頃からの卒業生の動向が把握できなくなってきているとの話が出された。

個人情報保護法の制定とか、地元に適当な職場が少ない為、求職による移動が繰り返されているのが原因のようである。

そこでお願いだが、その年卒業した県出身者については大学が一番よく知っているわけだから、不正確でも、一旦、情報を支部に流してほしい。そうすれば、実家に連絡をつけるなり、その後は支部が動いて所在確認に務めることができる。

◆支部報発行

○第66号　平成28年3月7日発行

・歩くと云うこと

○第67号　平成28年5月13日発行

・真っ直ぐに歩く

○第68号　平成28年7月18日発行

・徳は孤ならず必ず隣あり

○第69号　平成28年7月24日発行

・総会出席だけでは勿体ない

○第70号　平成28年8月1日発行

・総会・懇親会を終えて

以上　宮本義孝

○特別号　平成28年7月24日発行

・会員からの近況報告

山形県支部

◆支部総会　支部長　齋藤　裕

平成28年度の山形県支部総会は、6月18日（土）酒田駅前「ル・ポットフー」で開催されました。

支部長の支部活動の現状報告をもとに、今後の活動の在り方について話し合いがなされました。その後の懇親会では、松苓会創設85周年記念誌掲載の写真などを見ながら、学生時代の懐かしい思い出などを語らい、懇親を深めました。

酒田市　ル・ポットフーにて

（参加者）
上野博資（文33）　齋藤　裕（文38）
齋藤善明（文48）　齋藤智子（文48）
杉原雅彦（文50）　今野紀生（文55）
髙橋勇一（文64）

◆支部報発行

○平成28年8月6日発行

・支部活動について
（支部活動の経過・支部の現状・支部の活動の方向性）
支部長　齋藤　裕
・二松學舍大学の新しい潮流
・支部活動協力金のお願い

茨城県支部

◆支部総会　支部長　沼田俊明

平成28年度茨城県支部総会を左記の日程で実施しました。

日時　平成28年8月18日（木）
　　午後4時～午後6時時
場所　ホテルレイクビュー水戸
　　（水戸市宮町）
参加人数　42名
（大学関係11名、支部会員31名）

総会は、同会場で二松學舍大学主催の国語（漢詩・漢文、古典）講習会が実施されることになっており、それに併せての開催でした。茨城県内の教員向けに平成26年から実施された講習会には多くの二松學舍大学卒業生も参加しており、第2回となる昨年には二松學舍大学茨城県教員の会を発足させて、会員相互の交流を深めるとともに講習会開催に協力することにしました。そこで、第3回の今年は、支部も講習会開催に協力し支部活動の活性化につなげようと、講習会受講を含む支部総会の開催としました。

当日は、午後1時から講習会でしたが、前日の台風7号の影響で常磐線が運休となり、講師や受講者の到着が心配されました。しかし、無事

時間通りの開催となり、講師の石川忠久先生、山崎正伸先生の講義に、百余名の受講者は深い感銘を受けました。

午後4時から総会を開始しましたが、参加者の多くが教員の会会員なので、県支部と教員の会の合同の総会としました。沼田支部長、青山教員の会会長の挨拶の後、両会の事業報告、会計報告、支部役員案が審議され承認されました。

総会終了後そのまま情報交換会、懇親会に移りました。開会にあたり、磯水絵副学長のご挨拶があり、廣田克己松苓会会長の乾杯で懇親の宴が開始されました。午後6時までの限られた時間の中でしたが、講師の石川先生や山崎先生、磯先生をはじめ二松學舍大学の先生方を囲んで、学生時代の懐旧談に花を咲かせたり、現状を報告しあったりしました。宴の半ばには、参加していた本県出身の在学生二人の挨拶があり、将来の抱負を語る二人に激励の拍手が起こるなど和気藹々とした会となりました。最後に、参加者同士次回の再会を誓って閉会しました。

ホテルレイクビュー水戸にて

千葉県支部

◆支部総会　副支部長　前田康晴

平成28年8月13日（土）午後1時20分より、「千葉県文化会館」にて、平成28年度二松學舍松苓会千葉県支部総会を開催いたしました。参加者は、20名と、昨年度よりも多い人数となりました。辻支部長から挨拶とともに千葉県支部がおかれている厳しい現況（財政面や人事面など）についての報告があり、「支部活動の活性化」が今回も議論となりました。その中で、一名空席でありました、副支部長は元市原高校校長・田邉義博氏（文47）が内定した旨の報告があり、一同安堵いたした次第であります。これからのご活躍を期待いたします。

その後、記念講演として大阪教育大学名誉教授・山田勝久先生より、「シルクロードに悠久のロマンを馳せてー内田泉之助・橋川時雄先生に報恩の誠を尽くして学問の道を歩むー」と題し、約二時間にわたるお話を賜りました。内容は、シルクロードにおける文化（遺跡など）や仏教伝来の軌跡（仏典など）、また中国・朝鮮と日本との関係など、お話は多岐にわたり、どれも先生の深い研究に裏打ちされたものばかりで参加者一同、シルクロード文化に魅了されました。さらに、内田先生や橋川先生の思い出にも話が及びました。特に、橋川先生の「君との一夕の対話は、十年の読書に勝る。」というお言葉を紹介されましたが、その奥深さに感心させられました。佐藤一斎『言志四録』の「春風接人　秋霜自粛」（春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら慎む）を典故とした「自己に対しては秋霜の如く、人に対しては春風の如くあれ。」という言葉の紹介もありました。

千葉県文化会館にて

講演終了後も、出席の会員から講演に対する賛辞とともに全員が異口同音に「誇れる同胞」という言葉を発しました。衷心より感謝申し上げます。

記念撮影の後、千葉城を見学し、午後4時20分より、ここ数年ご協力を戴いている竹内恵子（文37）さん経営の「喫茶ボンヴィル」にて、懇親会を開催しました。本年も午後10時近くまで、過ぎゆく刻を忘れての歓談でありました。今回も松苓会本部や、遠く東京支部・神奈川支部からもご参加いただき、大いに盛り上がりました。感謝申し上げます。

（来賓）
松苓会本部副会長　山崎正伸（文41）
東京支部長　矢澤喜成（文50）
神奈川支部長　平野光治（文40）
（講師）
大阪教育大学名誉教授
山田勝久（文34）
大山徳高（文36）・辻　将一（文45）
前田康晴（文49）・藤本敏雄（文40）
竹内恵子（文34）・木村行幸（文38）
小林憲二（文38）・小林政明（文39）
行木康夫（文44）・田邉義博（文47）
小金澤豊（文50）・土屋　誠（文50）
金子和男（文56）・山口　朗（文62）
渡辺大雄（文65）・松本眞月（文84）

◆支部報発行

○第20号　平成28年2月29日発行

・「去る者追わず、来る者拒まず。」
　支部長　辻　将一
・「総会懇親会に参加して」
　東京支部常任幹事　渡辺大雄
・平成27年度千葉支部総会開催
　副支部長　前田康晴
・連載「愚魯の戯言」　藤本敏雄
・松苓会の活動に参加して
　前千葉支部会計　田村喜夫
・松苓会千葉支部への感謝
　前千葉支部事務局長　土屋　誠
・「漢字への魅惑」　辻　将一
・千葉支部総会に参加して
　文学部4年生　松本眞月
・平成26年度活動・会計報告
・二松學舍松苓会千葉県支部規約

東京都支部

◆支部総会　支部長　矢澤喜成

平成28年5月14日（土）

於二松學舍大学九段校舎4号館

3月16日に急逝された木村正雄前々支部長（文25）への黙祷の後、片山聖英幹事長の司会で始まり、矢澤の挨拶の後、畠山幸治常任幹事を議長に選出した。中原敬二事務局長による、平成27年度活動報告・会計報告、平成28年度活動計画・予算案、渡辺大雄監事による会計監査報告と滞り無く議事を終了した。最後に、星野優子副支部長兼女子会代表による、11月27日開催の女子会企画行事の案内後閉会した。講演会後の懇親会は、近くの中国料理「優優」に場所を移し、親睦を深めた。

千代田区・優優にて

○講演会　演題「人と出会い、人を創る　43年の教育生活を振り返って」

講師　多摩大学講師　関　秀雄先生

3月迄秋草学園高等学校に勤務されていた先生の、永年に亘る教員生活に於ける様々な出会いと経験の中で、常に思索し続けて来られた姿勢に、教育に携わる者として、深く感銘を受けた。

〈参加者〉21名

渡辺和則前学長
廣田克己松苓会会長（文38）
平野光治神奈川県支部長（文40）
井上和男顧問（文42）
緑川佑介（文28）　畠山幸治（文37）
佐藤　修（文41）　浅野進太（文42）
星野優子（文42）　鈴木龍男（文44）
大山由美子（文47）　神河秀春（文47）
髙柳幸雄（文49）　大渕俊明（文50）
片山聖英（文50）　矢澤喜成（文50）
野口悦子（文51）　菅原義博（文53）
中原敬二（文62）　渡辺大雄（文65）

◆支部報発行

○第60号　平成28年8月1日発行

・東京支部報六〇号を記念して
　支部長　矢澤喜成
・特別寄稿　父の思い出　木村浩氏
・哀悼の意　神河秀春
・支部総会・講演会の報告
・平成27年度活動報告・会計報告
・活躍する卒業生
　漫画家・イラストレーター
　おかめ中華
・女子会企画行事　第4弾
　東京湾クルーズとシャンパンゴールドに輝く丸の内散策

神奈川県支部

◆支部総会　支部長　平野光治

平成28年8月7日（日）10時より、県立地球市民かながわプラザにて、第39回二松學舍松苓会神奈川県支部総会が開催されました。開会の辞に始まり、支部長挨拶後、来賓の小林公雄本部幹事長、矢澤喜成東京支部長、前田康晴千葉県副支部長、永井陵次静岡県支部長、神奈川教員の会藤井隆晴会長よりご挨拶、ご祝辞をいただきました。

網野将美新地区委員を議長に選出して、議事に入りました。

平成27年度事業報告、会計報告が小林孝彰事務局長から提案され、片桐佐和子監査から監査報告があり、承認されました。小林事務局長により提案された平成28年度事業計画、予算案も拍手で承認されました。本年度は役員改選の年に当たり、新役員の承認をいただきました。続いて「文学歴史探訪」について田中憲明顧問より案内があり、東京支部星野優子副支部長より「東京湾クルーズとシャンパンゴールドに輝く丸の内散策」の紹介がありました。

横浜市・地域市民かながわプラザにて

総会終了後「人生の転機　屑籠に捨てられた願書」とのご演題のもと、会員の佐藤　馨様の講演が行われました。

記念撮影後、会場を変えて懇親昼食会を持ちました。

最後に、開会時に黙祷をささげましたが、神奈川県支部に対し、長きにわたりご支援を賜りました、東京支部顧問　故木村正雄様のご冥福をお祈り申しあげます。

総会参加者は次のとおりです。

■来賓

本部　幹事長　小林　公雄（文38）
東京支部 支部長　矢澤　喜成（文50）
東京支部 副支部長　星野優子（文42）
東京支部 副支部長　大山由美子（文47）
静岡県支部 支部長　永井陵次（文38）
千葉県支部 副支部長　前田康晴（文49）
神奈川教員の会 会長　藤井隆晴（文47）

■講師

神奈川県支部会員
佐藤　馨（政修5）

■支部会員

井上興正（文27）　浅居美智子（文33）
小林孝彰（文38）　田中憲明（文38）
廣田克己（文38）　三嶽道子（文39）
平野光治（文40）　中川俊一郎（文43）
前田　明（文48）　片桐佐和子（文57）
網野将美（文64）

長野県支部

◆支部総会　支部幹事　石川麻貴

平成28年度長野県支部総会が、去る7月30日（土）にホテル信濃路（長野市中御所岡田町）において開

催されました。

大学関係者として、文学部教授野間文史先生、廣田克己松苓会長をお迎えし、関保典支部長をはじめとする県内同窓8名を含め、10名の参加となりました。

総会では、関支部長の挨拶の後、廣田松苓会長よりご挨拶をいただきました。大学の近況、松苓会の様子や、具体的な取り組みのお話を伺いました。地方支部にはメンバー減少の問題があり、現在、地方と本部のパイプを太くするべく活動していらっしゃる、と頼もしいお話もいただき、長野県支部においても積極的に本部に問い合わせてみてほしい、とのことでした。

議事については、平成27年度活動報告、会計報告、さらに平成28年度予算案が満場一致で承認されました。

総会終了後、野間文史教授より「『論語』の歴史―歴代注釈書、特に『論語義疏』そして四庫全書について―」と題したご講演をいただきました。

長野市・ホテル信濃路にて

ご講演では、まず『論語』は孔子が書いたものではなく、孔子と弟子の問答を記録したものであり、宗教ではない、という基本的な解説から始まりました。続いて、歴代の注釈書の流れを見ながら、時代によって読まれ方が変わっている、という事例を具体的に示されました。

子曰、夷狄之有君、不如諸夏之亡也。

この解釈が、根元本では「中国の方が蛮夷より優れている」と読まれ、四庫全書本では「中国よりも夷狄の方が優れている」と読まれている、と言います。つまり『論語』の解釈は、それぞれの時代にそれぞれの読まれ方をしており、学問も時の権力者との摩擦を避けられなかった、という事実が示されています。そうした事から、研究、学問において『論語』は、当時の読まれ方を冷静に研究することが大切であるとのことでした。また『論語』にはまだまだ研究の余地が多く残されている、と大変興味深いご指摘もなされました。

私個人としては、昨今の平易に現代語訳した『論語』をさらりと読むくらいの知識しか無い中で、野間先生のご講演はとても興味深く、学生時代の講義を受けているような刺激的な時間となりました。

講演後の懇親会は、例年のように和やかな歓談の時間となりました。思い出話や近況報告など話題は尽きることなく、また諸先輩方からは学ぶことも多く、有意義な時間を過ごすことができました。

◆支部報発行

○第27号　平成28年6月24日発行

・恐怖　熊本地震　支部長　関　保典
・長野の思い出　学長　菅原淳子
・第65回書道學會展　旺文社社長賞受賞　金井清泉(いみ子)氏（文46）
・下伊那・飯田を巡って　副支部長　清水　登
　　石川麻貴
・挨拶
・会計報告
・支部総会お知らせ　大学情報

福岡県支部

◆支部総会　支部長　永淵道彦

平成28年8月21日（日）午後1時～5時、福岡県支部は、定例支部会を筑紫野市二日市中央商店街の福岡二日市文学館セミナー室で行いました。二日市中央商店街は、大宰府天満宮の玄関口であるJR、西鉄・両二日市駅から徒歩5～8分に関わらず、会場とすべき箇所は昼休み（午後2時～5時）となり、本年度も老舗「花源」弁当となったしだい。県下会員数減少のみならず、猛暑、福岡地区私学展等と重なり、以下の出席となりました。

阿部誠文（文36）正生英彦（文48）
桐　隆一（文57）井料洋美（文58）
永淵道彦（文36）

支部長所有の文学館セミナー室のこともあり、気楽に会食しながらの定例の支部会となり、会議に引き続き和気あいあいの懇親へと移行しました。私学展終了後に駆けつけてくれた桐隆一氏の在学中の軽音楽部での活躍話で盛り上がり、触発されて支部長永淵の体育系・文化系合同の部長会議長の折りの話が出たりしました。

筑紫野市・福岡二日市文学館にて

昨年以降の『台湾俳壇史』『満州・中国俳壇―人と作品』（上下）や歌集四冊刊行という阿部誠文氏の旺盛な文筆活動、支部長永淵の二日市文学館デモ版『エミリアンの旅・豊島与志雄童話選集第五巻』に引き続き、第六巻編集中の話もあり、又、矢野智也氏（文59）が出向の小学校教頭から中学校教頭への復帰や、前田（旧橋本）光子氏（文43）、瓜生晋一郎氏（文46）の来年度は是非出席との返報披露もありました。

◆支部報発行

○第15号　平成28年8月1日発行

・二松學舍松苓会
　創設85周年記念式典を開催
・本部定期総会の報告
・前年度福岡県支部定例会報告
・「学びについて」

「論語」箴言考　永淵道彦
・【募集】生き方講座
「易経・論語」に学ぶ
・支部定例会のご案内
・トピック　二松學舎大学

大分県支部

◆支部総会　支部長　甲斐啓一郎

8月27日（土）午後5時半より大分市府内町の郷土料理『こつこつ庵』で平成28年度松苓会大分県支部総会を開催しました。参加者は昨年より一人少ない7名。

昨年度の総会で加茂忍大分県支部長の体調不良のため、当分の間幹事の私が支部長の役目を兼任するということになっていました。しかし、6月に開催される松苓会本部総会に出席するのは支部長でなければならないということで、正式に支部長の任を引き継ぐことになりました。総会の経過報告の中でこの経緯を縷々説明。反対意見があれば再度支部長の交代もありましたが、特に異議も出されず、新支部長は承認されることになりました。幹事の役目は従来どおり兼任せよということであります。

美味しい料理にアルコールが入ってくると、人の話を途中で遮って語り始める人が現れるほどに話は尽きず、楽しい歓談は時間いっぱい続きました。

その中で二松學舎大学の知名度を上げるにはどうするかという話題になりました。附属高校野球部に頑張ってもらって甲子園で活躍してもらう、創立140周年記念の漱石アンドロイドの制作は知名度アップに貢献するだろう、卒業生が母校である二松學舎を高校生の進学先としてもっと自信をもって薦めるべきだ、等々の意見が出されました。

大分市・こつこつ庵にて

店から時間切れを言い渡され、校歌を歌う時間もなく、最後は畔津氏の音頭で慌ただしく万歳三唱し、次年度の総会での再会を約束して散会となりました。

〈参加者〉
平野芳彦（専14）畔津真智子（文34）
是本信義（特別会員）
富藤馨信（文43）中井智賀子（文44）
中井則夫（文47）甲斐啓一郎（文52）

鹿児島県支部

◆支部総会　支部長　岡元正昭

7月23日（土）鹿児島での大学説明会のため4名の先生方が来鹿された。会員の高齢化で支部総会も長い間開かれていなくて、良い機会と会員に呼びかけ大学の先生方と懇親会を実施した。会員のほとんどが現職を退き、現場の状況は不明、私達が現職の頃は高校の国語教師は鹿児島大学卒業生より二松の卒業生の方が多い時もあった。鹿児島南高校では、田原迫・宮原の両先生方と一緒になり一校に3名もの二松出身者がいたことは珍しいことだった。私自身、大学を卒業して53年。半世紀も昔のことになってしまった。貧しいながらも鹿児島の田舎から東京に出してもらったことを今さらながら両親に感謝したい。当時は校舎も木造、学生は沖縄から北海道までいたようだ。大通りはまだ都電が走っていた。通りから階段をあがるとすぐ中洲像があり毎日、登下校の時は頭をさげていた。当時は大学の教授陣にもめぐまれ、超一流の先生方から授業を受けられたことは最高の幸であった。年1回の総会で上京しているが、現校舎は昔とは雲泥の差がある。私達が入学した時は30数名、誰かが二松學舎高校附属大学などと言った人がいた。

鹿児島市・魚福にて

ほとんどが教職についた。義務制に18年、高校に20年勤務出来たことはやはり二松のおかげであったといつも思っている。書道を通して生徒との接触があり、今でも大人や子供達に教えて有意義な生活を送っている。

近年は少子化で各大学も生徒の募集には力を入れている。伝統ある二松學舎大学が大学の特色を生かし益々発展していくことを願わずにはおられない。千鳥ヶ淵の環境の良い所にある大学は必ずや隆盛をきわめることだろう。我々卒業生である松苓会員もいろいろな面でバックアップしていく必要があると思う。出来ることならば出身地への就職が出来ることを願う。地方創生なる言葉を聞かれるようになったが東京と地方の格差は大きいものがある。

松苓会報の原稿依頼を受けたものの拙文でとりとめのないものになってしまったことをお許し願いたい。

〈大学側出席者〉
高野和基副学長
山口直孝文学部教授
西園隆士教学事務部長（文59）
中原敬二入試課長（文62）
〈支部会員出席者〉
西　慶蔵（文34）井之上亨（文36）
井之上洋子（文34）田原迫俊朗（文38）
福園　剛（文40）上原右名位（文44）
原田奈穂子（文48）南田和博（文48）
南田淳子（文48）阿多威文（文55）
田村勝彦（文38）竹田陽平（文39）
久木田舞子（文79）岡元正昭（文31）

大学だより

大学は、明年10月創立１４０周年を迎えます。

創立１４０周年記念事業が進行中です。次にそのいくつかを紹介します。

漱石アンドロイド制作

大阪大学大学院基礎工学研究科（石黒研究室）との共同研究で、夏目房之介氏、朝日新聞社協力のもとで、夏目漱石のアンドロイドを作成し、大学等で講義を行うというプロジェクトを立ち上げました。完成した漱石アンドロイドは、朗読講義や授業用のプログラムを搭載、大学の全学生が受講できる特別講義を行う予定。また、附属中学、高校生向けの授業も実施。

漱石アンドロイドは、本年12月に完成の予定である。このニュースは6月7日の朝日新聞夕刊等で全国に発表された。

朝日新聞（夕刊）

吾輩はロボになる
――漱石アンドロイド製作へ

Tokyo Evening
2016年（平成28年）
6月7日
火曜日 夕刊

容姿 デスマスクで造形・声は孫・房之介さん

没後100年 二松学舎・阪大教授

こうなる 漱石アンドロイド

「一般的な漱石像 裏切る面も期待」

都市文化デザイン学科の新設

文学部に入学定員50人の都市文化デザイン学科を平成29年4月に開設します。

設置の趣旨を、「育てるのは『人』『知識』『モノ』の新しい結びつきを提言できる人材」として、江藤茂博文学部長は、次のように語っています。

日本文化は今やクリエイティブ産業の重要なコンテンツになっています。しかし一方で、その背景を十分に理解した上で魅力的にプロデュースできる人材はまだまだ不足しています。都市文化デザイン学科では、文化を表現し発信できる能力（コンテンツ制作や文化制作）、文化を再発見し加工できる能力（地域ブランディング）、文化を資源として活用できる能力（観光ビジネス）を実践的なカリキュラムの中で養います。ここで培う力は、新しい結びつきが次々と生まれるこれからの時代に、社会の様々な局面で求められる能力です。「好き」を「スキル」に変える。時代感度の高いみなさんの活躍に日本が期待しています。

漱石漢詩文屏風の紹介

本年1月25日の朝日新聞などの全国紙やＮＨＫなどで、本学が所蔵した漢詩文屏風が報道されました。

この屏風は、「夏目漱石の書としては最大規模のもので、二枚折一双の屏風仕立ての作品は、ほかに知られていません。漱石自身は、この屏風について何も語っていませんが、さまざまな間接的証拠から、漱石の教え子で『中央公論』の編集者であった滝田樗陰（たきた・ちょいん）がお願いして書いてもらった最晩年の作品である可能性が高いと思われます。滝田の証言によれば、屏風を完成するまで漱石の家に何度も通い、漱石は60枚前後の書き損じを作る苦労の末、仕上げたとのことです。草書で書かれた文字は、のびやかでかつ力強く、前衛的な筆遣いも見られます。最高級の紙、最高級の墨を使った本作は、書家としての漱石の到達点を示す傑作です。

漱石自筆の漢詩文屏風

教員免許状更新講習

交流会会開催

本年度の教員免許状更新講習が、8月8日から12日までの5日間、母校で実施された。これに合わせ、松苓会では8月10日午後5時から、大学13階ラウンジで卒業生教員の交流会を開催した。

廣田会長の挨拶、高野副学長から大学の現状等の説明の後、卒業生教員間、母校教職員と懇談した。参加者は卒業生教員20人、大学・松苓会関係者18人。

講習を終えた感想を、次のお二人にお願いした。

教員免許状更新講習を受講して

嶋田雅美（文63）

新しくなった母校で講習を受けるのもいいかな、と思い5日間の講習に臨みました。前半は最近の教育事情や危機管理について学びました。その中でも印象に残っているのが、職場でも話題になるアクティブ・ラーニングについての講義でした。現場では、「行うこと」だけが先行し、「なぜ行うのか」が自分の中でもはっきりしていませんでしたが、講義を受けて導入の背景が分かり、大いに納得すると共に、今後自分の授業にも取り入れたいと感じました。他にも教育現場での多くの課題を取り上げ、課題を分析し、それへの対策も提示していただきました。教育関係についての3日間の集中講義を通じて、以前他の研修で聞いた「経験だけではなく、理論も大切だ」という言葉が改めて腑に落ちました。今までの経験で何となく感じていたことを理論で確認できた、有意義な講習でした。

後半は現代文と古典の指導法でしたが、各講師の先生方の個性が十分に発揮された、楽しい講義でした。現代文の講義では、比喩表現や主人公の扱い、近代の問題点についての話が印象に残っており、今後の授業の中で役立てることができる内容でした。古典は4人の先生方という贅沢な講義でした。内容も非常に濃く、できればもう少し聞いていたいと思うものばかりで、教員という立場と作品を味わう立場両方で聞くことができた講義でした。

勤務校での補習などの仕事をやりくりして受講するのは大変でしたが、熱心な先生方の講義を受けて、その苦労に余りある貴重な5日間であったと感じます。また、3日目夜の懇親会では学生時代にお世話になった先生方とも久しぶりにお会いし、近況報告をすることができ、大学を卒業してもどこかで大学と繋がり、助けられているということを実感しました。二松の持つ、誠実さや文学に対する姿勢を改めて感じることができ、免許状更新と共に気持ちも新たに教壇に立ちたいと思った5日間でした。（松本美須々ヶ丘高校）

吉野泰正（文55）

私は以前から教員免許状更新講習は母校で受講したいと思っていました。それは、多くの卒業生が感じるだろう漠然とした安心感。同窓生、特に同期生に会えるのではという期待感。そして私にとって教員の原点ともいうべき母校で自分自身を見つめ直したいという思いからでした。卒業生限定の受講料優遇も有り難い制度です。

今回その目的は十分達成できたと思っています。そして同窓生には、母校での受講を強く勧めたいと思います。私のような受講動機の有無に関わりなく、講義される先生方はポイントをしっかり抑えて熱心に教えてくださるので、受講前に抱いていた修了試験への不安や心配もなくなると思いますし、また学生時代お世話になった先生方の講義を受けることになるかもしれません。私は山崎正伸教授、磯水絵教授の講義を受ける機会を得ました。当時と変わらぬエネルギッシュさで学生時代に戻ったかのような錯覚を覚えました。私には両先生のご講義が励ましの言葉として感じられ、決意を新たにすることもできました。事務局の方々も大変親切で講習に専念することができました。

特に今年度は「卒業生との交流会」を松苓会が企画してくださり、副学長の高野和基教授、教職課程の先生方そして母校で勤務されている卒業生の方々と各地で教員をしている私たちとで懐かしく楽しいひとときを過ごしました。ご多用の中このような会を企画してくださり有り難く思っております。

そして同窓生と久しぶりの再会です。休み時間に講義の内容について気軽に質問しあえるのは同窓生ならではの光景です。5日間という限られた期間ではありますが、学食で同窓生と久しぶりに昼食をともにすることもできるのです。これ何物にも代えがたい、母校で受講する者だけが味わえる醍醐味といえるのではないでしょうか。

私は最初で最後の講習でしたが、10年後にきっと再会するであろう同窓生が少しうらやましく思える5日間でした。（北海道立永嶺高校）

松苓会の歩み(7)

松苓会は本年6月に創設85周年記念式典を挙行し、『記念誌』及び会報特集号(第55号)を発行した。『記念誌』には松苓会の歴史資料を纏めており、会報特集号には「松苓会85年の歩み」を掲載している。従って、本誌の歩みはこれと重複する場合がある。

浦野会長のもとでの組織の立て直し

会報54号までは、浦野匡彦会長就任の昭和34年までの松苓会の歩みを掲載してきた。今回は、浦野会長時代のおもな活動を掲げる。

まず、大学新聞第88号（昭和35年5月1日発行）に掲載された浦野会長の「同窓各位へ」を掲げる。

「同窓各位へ

各位に御心配をかけつづけた母校も、復興否隆盛の一路をたどりつつあることと、御報告出来ることは、誠に御同慶に堪えません。

紙上で御承知の如く梅塾（昭和の初頃は貸家となっていた）跡には附属高校の鉄筋四階建てが完成を急ぎつつあるし、大学の入学志望も往年の全盛期をしのぎ、附属高校と共に競争率も高まりつつあります。本年七月十日には那智学長の米寿の祝賀会、十月十日の創立記念日には落成祝賀会が開かれる予定です。

いづれ夫々御連絡するつもりですが今から都合をつけて御参加下さるよう願います。と同時に是非とも府県別、地区別の松苓会支部の活動を御願いします。講演会開催の場合は講師を派遣しますし、総会の場合は出来るだけ私達も参加させていただきます。（松苓会長　浦野匡彦）」

さらに第89号（7月1日発行）に「松苓会の諸兄に告ぐ」と題した文章を掲げている。

「松苓会の会員諸兄に告ぐ

諸兄の母校二松學舍大学及び同附属高等学校は、毎号紙上を以て御報の如く終戦後の混乱期を乗り越え、どうやら軌道に乗り愈々発展への途上にあります。何卒今後とも御協力御支援の程を願います。就いては左の事を御連絡申し上げます。

一　母校の教壇生活六十余年にわたる現学長校長である惇斎那智佐伝先生の米寿祝賀会は、別載の如くいよいよ来る七月十日午前十時より九段下九段会館（旧軍人会館）において記念式典、ついで祝賀の宴を開催致しますので、万障御繰合わせの上御参加下さい。

二　本年度の二松學舍祭は、十月八日より十一日までの四日間開催と決定し（中略）。尚十日は創立記念日でありますので、午前十時より九段会館で記念式典、午後は附属高校の落成祝賀会を挙行します。いちいち御案内は差上げませんが随時御出席下さい。

三　松苓会の全員の総会は実際問題として開催不可能でございますので、卒業年度別委員と都道府県別の地区委員を中心として運営せざるを得ませんので、地方別の会、年度別の会を活発にしていただき、民主的に委員の選出、その他の御意見を出して来て下さい。

那智佐伝先生の米寿祝賀会（九段会館）

住所変更の場合なども是非この縦横の連絡を密にして訂正を申込んで来て下さい。右宜しく願います。（松苓会長　浦野匡彦）」

昭和35年3月の卒業者は、卒業期では第28回生で、卒業者数は53人。1月7日には、松苓会の大会（新年会）が開催され、席上、那智学長の「人日松苓会」の詩が披露されている。

人日松苓会

人日松苓大会開　迎年相慶保康来
今皆樹立応廻顧　黌運頼諸賢日恢

この年の、松苓会の役員は、名誉会長那智佐伝学長、顧問石川梅次郎（前会長・1回）、黒川喜久郎（1回）、会長浦野匡彦（2回）、副会長柴田周蔵（3回）、塚原心丸（5回）、委員は支部代表（支部長または幹事）、卒業年次代表委員。幹事に原沢仁磨（1回）以下の大学教職員15人が名前を揃えている。母校勤務の教職員を中心として本部組織の立て直しを図り、地方支部、卒業年度別組織の組成を働きかけている。

新年互礼会から都道府県支部長会議へ

この年と前後して本部の委員会が毎年1月7日に開催されている。大学新聞によると、1月7日に「松苓会恒例の新年会」「松苓会互礼会」「松苓会総会」「松苓会新春総会・互礼会」と名称は異なっているが、昭和

46年1月7日までの記録が残っている。開催案内が、

「例年どおり正月に委員会を兼ねて恒例の互礼会を催します。各支部長・各回代表には案内状を出しますが、これは総会を兼ねた拡大委員会ですから、最寄の同窓諸兄姉を多数お誘い下さい。

日時　1月7日　正午
場所　二松學舍大学
申込　12月25日までに本部または幹事（同窓教職員）へ
会費　300円」

（大学新聞106号）

そして昭和42年8月5日の都道府県支部長会議（16の支部長と本部役員10人が参会）の開催に結びついていく（昭和42年は二松學舍創立90周年に当たる）。このときの支部長会議の、協議事項は、①松苓会の組織強化について、②「90周年を祝う会」について、③名簿作成について、④規約改正について。規約改正の主な点は、本会の名称を「二松學舍松苓会」（旧称は「二松學舍大学松苓会」）とすること、会則に新しく準会員制度を入れることである。会議後、九段会館にて懇親会が開催されている。都道府県支部長会議の名称がでてくる最初である。現在の「総会」の持ち方の原型がこの時点で定まった（現行の会則第14条に「総会は支部長会〈支部長並びに本部役員で構成〉で行う規定となっている」）

昭和45年11月には、松苓会名簿の会員配布にあわせ浦野匡彦松苓会長名で「松苓会組織強化について」という文書を送付している。その趣旨は、昭和52年の創立100周年を迎えるに当たっての松苓会の組織強化の必要性を説いたもの。

「松苓会は、母校発展のため、何分の協力を致すため、組織の強化を図る必要があります。このため先ず会費納入を実行し、来る100周年までに強固な組織を作ることを念願しております。幸いこのたび、昭和42年度の会員名簿の増補と訂正を兼ねて追加名簿を発行致しましたので、これを会員に配布し、下記に依り松苓会費の納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。」として、会費は、

A　二松學舍専門学校及び二松學舍大学卒業生の会費は年額会費1,000円とし、なるべく2ヵ年分以上を一括納入願います。

B　二松學舍専門学校卒業生で、満60才に達した会員は、5,000円納入下されば、終身会員とします。

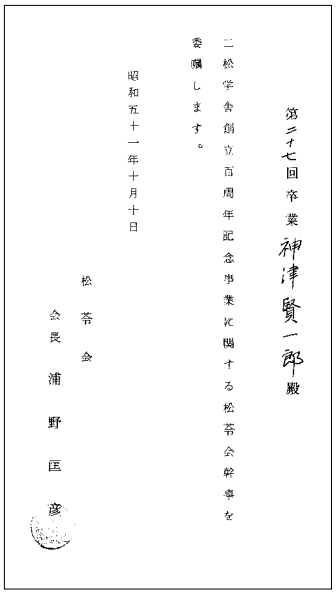
C　納入していただきました会費は余裕があれば松苓会館建築資金の一部にあてる予定です。会費納入者には二松學舍大学新聞（年5回発行大判）を無料送付します。今回送付の名簿代金は無料とします。なお、2ヵ年分以上の会費納入者で昭和42年度の名簿のご希望の向きには無料で送付します。

12月1日発行の大学新聞139号にも同趣旨の「二松學舍松苓会　お知らせ」を掲載している。

創立百周年へ向けて

昭和50年には二松學舍創立100周年記念事業実行委員会が発足し、実行委員及び地方委員に松苓会支部長等役員を委嘱している。8月に支部長会議（地方支部から23人出席）を開催し、100周年記念事業について協議している。

（文責　小林公雄）


第二十七回卒業　神津賢一郎殿

二松学舎創立百周年記念事業に関する松苓会幹事を委嘱します。

昭和五十一年十月十日

松苓会
会長　浦野匡彦

百周年記念事業の幹事委嘱状

100円朝食

学生が家計を気にせず、健康な状態で学業に専念できる環境づくりを進めるため、毎週水・木曜日の8時15分～9時半の間、30食限定で100円朝食を実施している。松苓会からの寄付により、100円という低価格での提供が実現した。

今年の5月から開始した取り組みであるが、終了時間前に完売してしまう日も多く、学生には大変好評である。100円朝食を利用している学生にアンケート調査を実施したところ、「栄養バランスがとれていて良かった」「金銭面で助かる」「朝は時間がなく手を抜いてしまうことが多いのでありがたい」等の意見が寄せられた。一人暮らしをしている学生の利用が多く、「食育」の観点からも非常に意味のある取り組みとなっている。

半期の実績としては、実施回数24回、販売食数678食となっており、今後の状況により日数や食数を増やすことも視野に入れている。充実した大学生活の一端を担うことができるよう、学生のニーズを汲み取り、反映させていきたい。

大学図書館の今昔

小林 憲二（文38）

大学図書館が所蔵資料を提供し、学生・教職員等利用者の学習・研究に資するという図書館本来の基本的立場に変化はないが、機械化による利便性の向上、オンライン閲覧目録等の情報機器の出現による資料の検索方法の迅速化、全国ネット化、ラーニングコモンズ等最新の設備を利用したグループワークエリアの開設、サークルや授業・ゼミナールの為のプレゼンテーションルームの設置等、図書館を中心にした様々の利用エリアの多様化、あるいは電子書籍の登場には、過去の図書館と比較して、隔世の思いがある。比較の一例を挙げてみると、所蔵資料の「カード目録検索」といって理解できる世代は、今では少数派になってしまったのではないだろうか。

昭和 44 年頃の閲覧室

私が大学図書館に就職したのは、昭和45年4月からであるが、図書館は（図書室と云うべきか）5階建校舎の2階にあって、書庫は耐火建築が施されていた。図書館長は、橋川時雄先生であり、館員には、西澤嘉隆、嶋田稔子、四宮真樹、吉永登史子、小谷野純一の諸氏と小林であった。館長室は廊下を挟んで、1階から階段を上がった右側にあった。館長室での橋川館長と中国文学科の石川梅次郎先生の清談は、今でも懐かしい。資料の貸し出しは辞書類の参考図書以外は閉架式（必要な資料は目録で探し、請求票に記入して、カウンターの館員に渡し、資料は館員によって書庫内で検索され、書庫から持ち出され利用者に手渡される）で出納され、資料検索にはカード目録を配列順に1枚ずつめくって行っていた（カード目録には、用途別に、著者名目録、書名目録、分類目録の3種類があった）。カード目録の設置場所は、かなりのスペースを占めていた。他大学機関とは、現在ほど、相互協力は頻繁に行っておらず、自館を利用する学生の使用する資料は、なるべく自館内で賄うと云う事が大原則であった。私がカウンター担当で一人当番の時、当時の学長加藤常賢先生が資料の利用にお見えになった。先生はカード検索をなされず、口頭で資料名をおっしゃってカウンターで出納をお待ちの様子、検索に書庫に入って資料を探してみても、専門書のようでどういう本か訳がわからず、学長を長時間、カウンターに待たせる気づかいで、冷や汗三斗の状況であった出来事を思い出す。その後図書館は、昭和53年に、百周年第1記念館の2階・3階に移った。地階には食堂があり、上階の剣・柔道場や体育館に挟まれ、図書館としての環境は、良いとは言えなかった。この時の館長は石川梅次郎先生、課長は橋本栄治先生であり、館員は大上恒雄、磯高志、安原明子、若山喜志子、高林由美子、内山安代、金子弘子の諸氏と小林であった。その後、九段校舎建て替えの為、一時附属沼南高校校舎の一部を借用した時期もあったが、平成16年4月からは、現在の1号館地下1階・2階が図書館として利用されている。又、沼南図書館（現柏図書館）も、昭和57年に開館され、現在に至っている。

旧校舎の書庫

歴代図書館長は次の通りです。（敬称略　昭和34年以降）

橋川時雄、石川梅次郎、赤塚忠、石川梅次郎、佐古純一郎、田中伸、雨海博洋、橋本栄治、大谷光男、松本寧至、前田式子、菅根順之、山崎正之、針原孝之、佐藤保、山崎正伸、菅原淳子、林謙太郎、長谷川日出世、吉崎一衛、磯水絵、谷口貢、土屋茂（現館長）

昭和 45 年 4 月当時の図書館員

活躍する卒業生

今回も、マスコミに取り上げられ、松苓会室に寄せられた卒業生の活躍を紹介します。

安岡定子さん（文53）は、読売新聞夕刊に、今年4月から毎月1回『スイスイ論語』を連載中。「銀座寺子屋こども論語塾」、全国の学校や企業などで論語の講義をするなど活躍されている。

著書には、『心を育てるこども論語塾』『楽しい論語塾』『はじめての論語』など多数。

第1回は、4月2日「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず」（雍也六より）を取り上げ、「あることを知っているだけの人よりも、それを好きになった人の方が優れている。それを好きになった人よりは、そのことを楽しんでいる人の方がもっと優れている。」と訳文を示し、「『知る』から始めよう」とこども向けのやさしい解説文をつけている。

写真は、9月3日掲載のもの。「君子は其の言の其の行にすぐるを恥ず。」（憲問十四より）

認定ＮＰＯ法人エンディングセンター理事長**井上治代**さん（文41）が、4月23日（土）朝日新聞のbe版で大きく紹介されました。

井上さんは、本学卒業後、広告代理店等に勤務。その後ノンフィクション作家として、執筆・評論活動を続けるとともに、淑徳大学大学院で社会学博士の学位を取得。東洋大学ライフデザイン学部の教授を務めました。

平成2年に死と葬送に関する市民団体「21世紀の血縁と墓を考える会」を発足し、平成12年に同会を発展解消してエンディングセンターを立ち上げ代表に就任。現在に至っています。

主な著書は、『女の姓（なまえ）を返して』『現代お墓事情』『墓を巡る家族論』などがあります。

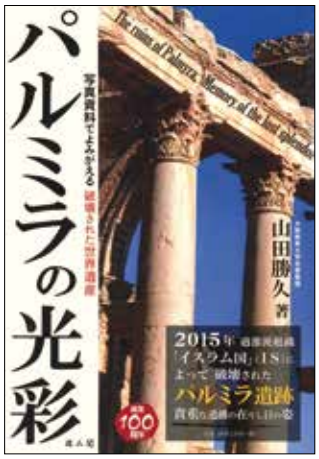
山田勝久氏（文34）が『パルミラの光彩』（写真集）を雄山閣から出版されました。同氏は、大阪教育大学名誉教授。8月29日の毎日新聞、31日の読売新聞で紹介されました。

イスラム過激派組織「イスラム国」によって主要道路が破壊されたシリアの古代遺跡パルミラ（世界遺産）のかつての姿を知ってもらおうと刊行した。

序文に、次のように書いています。

「私は、二〇〇七年一〇月と二〇〇八年一一月に、パルミラ遺跡の調査を実施した。土石累々として果てしなく広がる遺跡の大きさに言葉を失った。往時のパルミラは、現在の遺跡の三倍以上あったという。今まで訪ねた楼蘭やトルファンやカシュガルの町は、日干し煉瓦で作られていたので、歴史の風雪に耐えられずほとんど土に還っている。しかし、パルミラの建造物は石造り遺跡であるので、長い歳月を経ても当時の有様を彷彿とさせる。（中略）

二〇一五年八月二五日、パルミラ遺跡の象徴的な存在であるバールシャミン神殿をイスラム過激派組織「イスラム国」（ＩＳ）が破壊したという画像がネットで公開された。次いでパルミラ最大のベール神殿も破壊された。ベール神殿は古代ローマの建築様式を受けつぎ、列柱で囲まれた本殿などで知られる回廊遺構で、異教の神を祀ることから標的となったようだ。衛星の画像を見たところ、正面の門柱の一部を残すだけで、境内の建物は完全に破壊され瓦礫となっていた。その他、二〇〇〇年の風雪に耐えてきた記念門（凱旋門）も爆破によって崩れ落ち、美しい幾何学的な彩色文様を描いたアーチ型石門はもうない。列柱も被害を受けた。」



卒業生だより

36回生同期会

梅雨の晴間の6月11日、九段校舎1号館13階レストランで5回目になる同期会が20名を全国から集めて開催されました。

2年前が17名、その前が15名ですので毎回増えているのは、喜ばしいことです。今回は日帰りが可能なように開催時間を早めたこと、遠方から参加する人達がホテルを確保しやすいように連絡を早めたこと等が功を奏し、始めて参加する人（5人）、女性の参加が倍増しました。

140名程の少ない同期のうち住所の判る74名に連絡して20名の参加ですからすばらしいの一語です。

全員、古希を越え、どのくらい継続できるかわかりませんが、頑張って継続したいと思います。（幹事　山﨑郁紀）

参加者

伊藤省三（東京）、岩崎（桑山）光子（兵庫）、板山俊介（山梨）、小川（野村）孝（埼玉）、大山徳高（千葉）、沖山吉和（東京）、奥村悠二郎（沖縄）、梶村（辻川）恒子（長崎）、北沢（山田）律子（熊本）、金　甲順（茨城）、後藤輝雄（東京）、田中（城谷）知子（長崎）、中沢日出司（滋賀）、永淵道彦（福岡）、野村久夫（埼玉）、福原（会川）路子（福島）、前沢正謹（千葉）、目黒良彦（神奈川）、山﨑郁紀（北海道）、横須賀　洋（福島）

青山忠一先生ご夫妻の米寿を祝う会

平成28年5月15日（日）、「青山忠一先生ご夫妻の米寿を祝う会」を九段下のホテルグランドパレスにおいて開催した。

青山ゼミ卒業生の会である「忠友会」が中心となって行ったもので、全国から70名の忠友会員が集い、他のゼミ生などの参加も含めて総勢80名の会となった。

午後1時、忠友会幹事長の片山聖英氏（文50、忠友会12期）による開会の挨拶から始まり、青山先生ご夫妻からのお言葉、芝田周一教職支援センター特命教授（文44、忠友会6期）の乾杯のご発声をいただいた。

引き続き、「着衣の儀」として青山先生ご夫妻に、米寿の「金のちゃんちゃんこ」をお召しいただくと、会場からは「かわいい、かわいい」の声とフラッシュの嵐となり、一気に会場は盛り上がりを見せた。

忠友会員は1期から28期までが集まり、皆、久々の再会にも関わらず、すぐに打ち解けて学生時代の思い出話に花が咲いていた。

しばしの歓談の後、邦楽囃子笛方の福原洋音様による祝い笛の演奏が行われた。そして祝電披露の後、各期から先生へのお祝いの言葉や現在のことなどの報告がなされた。

そして記念品の贈呈に移った。記念品は青山先生のお名前に因んで「青山・赤山の富士」の夫婦の器を新潟のガラス職人に依頼。また花束はフラワーデザイナーの角美保氏に依頼して、この日に届けられたものであった。

その後、忠友会恒例の「大学校歌」「再会」「鉄腕アオチュー」の3曲を全員で合唱すると、会は最高潮に達した。

結びに忠友会代表の井上和男会長（文42、忠友会4期）から閉会の挨拶があり、この米寿の祝いをもって、忠友会事務局締めの宣言となった。

3時半、全員は「再会」を約束してお開きとなった。この日集まった忠友会員の六割が教職についており、青山先生の薫陶を得て人を導き育てる役割を担っているところに二松學舍大学の特色を見るのであった。（馬淵裕之）

会員からの便り

先生方と大学の思い出

長澤悟江（文50　群馬）

『松苓会報No.55――特集号』、とても懐しい思いで読みました。記載されている先生方のお名前を拝見しながら、本当にたくさんの先生方にお世話になったんだなあと、改めて思いました。

中田勝先生の『論語』の期末試験、今でも鮮明に覚えています。『論語』で孔子が一番いいたかったことは何か（問一）。仁義礼知忠信孝悌。この八文字はどれも大切だが、並んでいる順が優先順位だと。つまり、「仁」が最も大切。では、「仁」とは何か（問二）。それは人を思いやる心のこと。そして私達が実生活の中で、その心を感じたのはどんな時か（問三）と。

私はこの答えを、食堂の店主が注文と異なる料理を作ってしまった時、兄が「作っちゃったならいいです。」と言ったことを書いた。

それから、山口角鷹先生。何のために『孟子』を学ぶのか。これが読めるようになることではなくて、靖国神社の大村益次郎の銅像下の漢詩文が読めるようになるためだと。

さらに、「集大成」という言葉の重みについても熱く語っておられました。それは一生涯をかけてまとめ上げるものであるから、若輩者が集

大成という言葉をたやすく使うものではないと。とても気骨のある先生でした。

卒論でお世話になった佐古純一郎先生。ゼミの鳩貝久延先生。

石川忠久先生。塾でアルバイトをした時に、教科書に石川忠久先生のお名前と漢詩の解説文が載っているのを見てビックリし、手紙を書きました。後日、鳩貝先生を偲ぶ会でお会いし、話をする機会を得ました。

この時があり、今がある。母校での教員免許講習時に知人と再会し、旧交を温めることができたのも、嬉しい思い出の一つです。

私は今、幼稚園で働いていますが、塾や中学校で国語を教えることができたのも、この二松學舍で学んだおかげだと思っています。

千葉與一郎（専14　宮城）

拝啓　今日は梅雨の中休みで、爽やかな風が吹きわたっています。

昨17日に母校の松苓会創設85周年記念式典での感謝状や関連する資料や記念品までご恵贈いただき有難うございました。長年の間なす事もなくただ職をけがしたことは誠に汗顔のいたりですが、ありがたく頂戴いたします。改めて、母校の更なる発展を祈念し御礼のご挨拶まで申しあげます。療養中悪筆をお許しください。

敬具

須田哲夫（専18　埼玉）

松苓会報第55号（特集号）確かに嬉しく拝読しました。

我が母校の発展が手に取るようにわかり、事務局の皆様の熱意、編集上のプランには頭が下がります。小生は、雨海博洋氏と同期です。友人も鬼籍に入りましたが、懐かしさは耐えられません。これまで通り卒業生の声の反映を望みます。時節柄、皆様ご自愛を

敬白

藤田佳應（文24　島根）

前略　昨日は、松苓会創設85周年の記念品の数々、並びに島根支部長（11年間）への感謝状を御送付下さり、有難く厚く御礼申し上げます。

当日は（6月12日）は孫の結婚式（神戸にて）があり、松苓会の式典には参列できませんで申し訳ありません。早速つぶさに各種資料に目を通して、往時を思い出し、なつかしく思っております。特に、「記念誌」の編集は大変な作業でしたね、MAPは昔をしのんでとてもなつかしく思い出します。会報や鶴蒔さんの著書はこれから読みます。ビジョン2017は、大変立派にできています。大学も大きくなったものですね、学長さんもすばらしいです。種々どうも有難うございました。「松風」もとてもよかったデス。

草々

丸山祐三郎（文24　新潟）

拝啓　松苓会創立85周年おめでとうございます。式典、祝賀会その他諸行事も盛大の裡に無事終了されたことをお喜び申し上げますとともに、ご苦労様でございました。これを機に松苓会の益々のご発展を祈念いたしております。

この祝日に参加できず残念且つ失礼いたしましたにも拘わらず、我が儘なお願いを御聞き届けくださいまして、早速感謝状並びに記念誌等恵贈下され、有り難く且つ恐縮いたしております。今後、この感謝状の趣旨に鑑みて一会員としてサポートし、多少なりとも会の発展に寄与したいと思っております。誠に有難うございました。

敬具

畑　功（文26　岩手）

前略　ごめん下さい

感謝状並びに創設85周年記念誌等ご送付くださり誠に有難うございました。はがきで失礼とは思いますが、松苓会の益々のご発展を祈念しお礼とさせていただきます。

不一

神津賢一郎（文27　静岡）

暑中お見舞い申し上げます

松苓会創設85周年記念式典・祝賀会が盛会でありましたこと、皆様のご尽力によるものと心よりお慶び申しあげます。立派な記念誌と会報を完成させたご労苦に対し感謝し、厚く御礼申し上げます。祝賀会には、会長より身に余る言葉をいただき恐縮です。私が職務を全う出来たのは皆様のおかげだと思っております。

これからは、松苓会の在り方、運営等大変だと思いますが、お体に気をつけてご活躍をお祈り申し上げます。

塩永英文（文52　熊本）

紫陽花の季節となりましたが、廣田さまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、先日は松苓会様より感謝状等をお送りいただきまして誠にありがとうございました。簡単ながらお礼を申し上げますとともに、松苓会様のより一層のご発展をお祈り申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

松苓日誌抄

平成28年

3月25日　松苓会課外活動助成金授与式

3月30日　附属高等学校野球部合宿所の改修竣工式（柏キャンパス）が行われ、廣田会長出席。

4月4日　大学の新入生ガイダンスで松苓会の歴史、活動等を説明、松苓会報第54号を配布。

4月6日　大学の入学式が中野サンプラザで行われ、廣田会長参列する。

4月17日　千葉県栄町議会選挙で、橋本浩氏（政5）再選する。

5月13日　国際政治経済学部20回卒角田陵亮氏、松苓会室訪問。上海支部結成の相談

5月21日　常任幹事会開催。終わって85周年記念事業実行委員会。

6月28日　法人との連絡協議会

7月19日　第155回芥川賞に附属沼南高校（現柏高校）卒業生の村田沙耶香さん受賞。受賞作は「コンビニ人間」

7月30日　第2回基本問題検討委員会開催。

9月10日　プロ野球セ・リーグ広島25年ぶりに優勝。立役者の1人に鈴木誠也選手。附属高校出身。

9月10日　常任幹事会、終了後、大学父母会役員と松苓会三役との懇談会実施。

「恋する人文学」の紹介

二松學舍大学文学部国文学科の先生方が執筆した、「恋する人文学―知をひらく22の扉―」が、本年3月に翰林書房から発行されました。定価は税抜きで千八百円です。

本の帯には、「恋は学問ですよ。」と題して、『伊勢物語』が示す恋愛のモデルコースとは？　藤原定家はなぜ女性のふりをして恋歌を詠んだのか？　落語に純愛ものが少ないのはなぜ？　近世と近代の三角関係はどう違うのか？　『世界の中心で、愛を叫ぶ』で傷心の主人公が旅に出るわけは？　柳田民俗学の出発点は恋愛だ？　「仏の愛情にすがる」という表現はなぜおかしい？…。と書かれています。

恋愛をめぐるさまざまな謎に、本学国文科の先生方が挑み解き明かします。人文学の魅力、学問の面白さを発見させる新しい形の入門書です。

人文学なんか要らないという昨今の大きな声の中で、実は面白いし、役にも立つ、そんな人文学を楽しもうということで出版されました。

ぜひご一読ください。

ホームカミングデー開催！

期　日　平成28年10月29日（土）
会　場　九段1号館
作品展　10月24日（月）～30日（日）

今年度は、懇親会は行いません。11階会議室に交流サロンのスペースを設けます。お立ち寄りください。

平成13年度以前の卒業生の方へ
終身会員手続きのお願い

松苓会の運営資金は、ほとんどが終身会員の会費で賄われております。終身会費1万円を納入していただくと終身会員になり、会報の毎回発送やホームカミングデーの案内が毎年送られるようになります。昨年度は、67名の方が手続きされました。終身会員の手続きをとられるようよろしくお願いいたします。

寄付金のお願い

松苓会では、会の発展のために会員の皆様に寄付金のお願いをしてきました。昨年度は、約62万円の寄付金が集まりました。

松苓会の事業推進と財源確保のために、一口千円で寄付金を募ります。ご協力よろしくお願いいたします。

訃報

浅井昭治氏（専18）3月4日逝去
元松苓会常任幹事

木村正雄氏（文25）3月16日逝去
元松苓会幹事　元東京都支部長

村山定男氏（文23）6月30日逝去
元新潟県支部長

ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

松苓会報　原稿募集

会員相互の交流、情報交換の場を積極的に提供するため、会員から原稿を募集することとしました。

内容は、会員の近況報告（例えば、書道などの「個展を開催する」「開催した」「受賞した」）母校や恩師の思い出、漢詩、短歌、俳句などの文芸作品。同期会、クラブOB・OG会を開催する、開催したなど。

字数は、800字程度まで。短信（50字位）でもかまいません。

締切　特に定めません。会報は年2回（10月、3月）発行しておりますので、適宜掲載いたします。

お詫びと訂正

会報54号24頁の、磯水絵氏の寄贈図書の紹介で、「説話と横笛―平安京の管絃と楽人―」の絃の字が弦となっていました。お詫びして訂正いたします。

表紙写真

表紙の写真は、大学1号館の地下1階にある図書館閲覧室です。20頁にも、「大学図書館の今昔」と題して、図書館の歴史が掲載されております。大学は、蔵書も多く貴重な資料もたくさんあります。卒業生も利用できますので、ぜひご活用ください。今後、表紙の写真は大学内部の写真を掲載していきます。

編集後記

松苓会報56号をお届けします。55号が85周年記念特集号でした。55号で一区切りとして、56号から、新たな気持で会報をお届けしようと、表紙も変え題字は五十嵐清氏（文44）にお願いしました。55号で先生方の思い出原稿を頂きました。こちらは、今後も続けたいと考えています。加えて、部局の職員の方々の思い出や、移り変わりもと、思っています。今回は、図書館の移り変わりを書いていただきました。これからも、いろいろな記事を載せたいと思っています。ご意見やご提案など賜れば幸いです。

二松學舍松苓会報 No.56

創　　刊　昭和62年12月1日
発　　行　平成28年10月1日
編　　集　二松學舍松苓会
住　　所　〒102-8336
東京都千代田区三番町6-16
電　　話　03-3261-7408
振替口座　00180-5-160343（郵便局払込取扱票）
印　　刷　㈱サンセイ

二松學舍大学（松苓会）
ホームページ　www.nishogakusha-u.ac.jp
松苓会 E-mail　shourei@nishogakusha-u.ac.jp